

アンデルセン『人魚姫』における脚部障碍の表象
フケー『ウンディーネ』との比較

2013 年 5 月 25 日(土) 於:東京外国語大学
中丸 禎子(東京理科大学)

1. ドイツ文学におけるアンデルセン『人魚姫』(Den lille Havfrue, 1837) 研究

- ◆ 伝記的研究:アンデルセンの同性愛に焦点を当て、『人魚姫』をジェンダー的観点から論じる
デーリング『公然の秘密』(1994)、マール『精霊と芸術』(1995)
 - ◆ 半人半魚の人魚姫 = 「半分女性的」 = 同性愛者アンデルセン
- ◆ 人魚モチーフ研究:人魚モチーフを通史的に論じ、『人魚姫』はドイツ・ロマン主義の文脈で重視
クラス『人魚たち』(2010)、小黒康正『水の女』(2012)
 - ◆ 水/女/自然/物質/ポエジー言語
陸/男/文明/人間/言語 } という図式

→『人魚姫』のデンマーク文学としての側面から、『人魚姫』の独自性を追求

2. デンマーク文学史と人魚モチーフ

(1) デンマーク文学史

- 1773 デンマーク宮廷でドイツ人医師スルーエンセが失脚→ナショナリズムの勃興
- 1802 ヘンリク・ステフェンス、7 年間のイェナ留学(シュレーゲル兄弟、ノヴァーリス、シェリングらと親交)から帰国、ロマン主義の理論を紹介する連続講義
 - 1803 エーレンスレーヤ『黄金の角笛』
- 1800 年代初頭 ゲーテ『若きヴェルテルの悩み』の流行→個人、愛、自殺のモチーフ
- 1805 ナポレオン戦争敗戦、海外領土の喪失
- (1811 フケー『ウンディーネ』)
- 1824 グロントヴィの詩集『新年の朝』:ナショナリズムの象徴としての女性の人魚
- 1834 アンデルセン『アウネーテと人魚』(Agnete og Havmanden, 1834)
人間の女性アウネーテと男性の人魚(Havmanden)の悲恋を描いた作品
(前史)デンマークの民謡「アウネーテと人魚」
 - 翻案作品:バグゲセン「ホルメゴーアのアウネーテ」(1808)
 - エーレンスレーヤ「アウネーテ」(1812)
- 1837 アンデルセン『人魚姫』

(2) ナショナル・アイデンティティとしての女性の人魚

グロントヴィ(Nikolaj Grundtvig, 1783-1872)¹:ラテン語教育を批判、デンマーク語(特に女性の話し言葉)を称賛→愛国的な詩における人魚モチーフ

¹ グロントヴィと人魚モチーフに関しては、在ノルウェー日本国大使館専門調査員の田淵宗孝さんに全面的なご教示を賜りました。

デンマーク海上帝国



人魚姫の呼称

- Havfrue > Frue : 既婚女性 Frøken : 未婚女性 Kvinde : 女性

- 『人魚姫』における人魚姫の呼称 :

 海の底では、姫君 (Prindsessen)、子ども (Barn)

 海面または陸に上がると、小さい海の女 (den lille Havfrue)、海の女 (Havfruen)

 空に上がると、空気の娘たち (Luftens Døttre)

→人魚姫は、女性としてのアイデンティティを完成させるのではなく、娘=子どもに戻って、新たな庇護者のもとで上昇を続ける

【引用 1】

あの人たちはきっと考えてもみないでしょう、美しい小さな人魚 (den lille Havfrue) が下に立って、キールの方へ白い両手を指しのばしていることなんて」(Hf. 89)

【引用 2】

そしておばあさまは、8つの大きな牡蠣を姫 (Prindsessen) の尻尾に挟ませました。彼女の高い身分を示すためです。「すごく痛いわ！」小さな人魚 (den lille Havfrue) は言いました。(Hf. 91)

(3) 自己否定の文学

デンマーク国家のサクセス・ストーリー ⇄ 自己否定

「自己」「主体」としての人魚

- 常に人魚姫と共にある語りの視座
- 恋愛し、自殺する主体 vgl.他者として描かれるウンディーネ

3. 脚部障碍

- 尻尾、脚の痛み→脚部障碍のヴァリエーション
- ロマンティック・バレエ:ロマンティック・チュチュ、ポワント、女性バレリーナ
アンデルセン:オペラ歌手を断念し、バレエダンサーを目指す
オーギュスト・ブルノンヴィル演出『ラ・シルフィード』(1836)
- ブルジョワ男性の愛人を目指すバレリーナ
→対話する妻ではなく、踊る妾としての人魚姫 vgl.フルトブラントと対話するウンディーネ

【引用 3】

女は痛々しく泣き、不安げに両手を頭上に差し伸べて、ゆっくりとした巖かな足取りで (mit langsam ernstem Gange) 城へと歩み入った。(S. 198)

【引用 4】

今や、女奴隷たちが、いとも妙なる音楽にあわせて、優美で滑るように踊っていました。小さな人魚姫 (den lille Havfrue) は、きゃしゃで白い両腕を上げ、つま先で立って、床の上をすべり、これまでに誰も踊ったことのないようなダンスを踊りました。(中略) 王子は言いました。いつも僕のそばにいなさい、僕の部屋の外のピロートのクッションの上で寝ることも許してあげる。(Hf. 101)

【参考文献】

<一次文献>

- Hans Christian Andersen:Den lille Havfrue. i:Eventyr Bd. 1, Kjøbenhavn (DSL) 1963, s. 87-106
- Hans Christian Andersen: Agnete og Havmanden. Dramatisk Dig. Kjøbenhavn (Forfatternes Forlag) 1934
- Friedrich de la Motte Fouqué: Undine. In: Undinenzauber. Stuttgart (Reclam), S. 107-203
- (Folksvisa) Agnete og Havmanden. <http://www.kalliope.org/en/digt.pl?longdid=folke2000013101> (2012年9月15日閲覧)
- 下宮忠雄『アグネーテと人魚、ジプシー語案内ほか』(近代文藝社) 2011

<二次文献>

- Heinrich Detering: Das offene Geheimnis. Zur literarischen Produktivität eines Tabus von Winckelmann bis zu Thomas Mann. Göttingen (Walstein) 2002
- Jürg Glauser (Hg.): Skandinavische Literaturgeschichte. Stuttgart (J. M. Metzler) 2006
- Andreas Kraß: Meerjungfrauen. Geschichten einer unmöglichen Liebe. Frankfurt a. M. (Fischer) 2010
- Michael Maar: Geister und Kunst. Neuigkeiten aus dem Zauberberg. (Hanser) 2009
- Elisabeth Oxfeldt : Nordic Orientalism: Paris and the Cosmopolitan Imagination 1800-1900. Copenhagen (Museum Tusulanum Press) 2005
- 小黒康正『水の女 トボスへの航路』(九州大学出版会) 2012
- ジャッキー・ヴォルシュレガー『アンデルセン ある語り手の生涯』(岩波書店)2005
- 鈴木晶『バレエ誕生』(新書館)2002

【発表者連絡先】

メールアドレス:nakamart@rs.tus.ac.jp

ホームページ:http://www7b.biglobe.ne.jp/~nakamaru_teiko/index.html

「業績」欄から、これまでに発表した雑誌掲載論文や口頭発表レジュメ(PDF ファイル)がダウンロードできます。